

J R西日本の紀勢線の津波対策の検討

2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生した。その地震に誘発された大津波は、岩手・宮城・福島・茨城・千葉に至る広域エリアに甚大な被害をもたらした。東日本大震災を受け2012年9月には防災基本計画が改正された。そこで今回、南海地震に対する紀勢線の安全対策を研究した。第I章では南海トラフにおける被害想定と紀勢線の概要を論じている。また、2011年9月に発生した台風12号における紀勢線の被害状況と、南海トラフと紀勢線の関係を述べている。第II章では南海トラフ地震が発生した際の紀勢線における津波対策をハード面とソフト面に分けて論じている。ハード面では避難はしごやセーフテイルライトの効果を説明し、ソフト面では避難ルートマップのほかに乗務員が指令など連絡を取れなくなったとき取るべき行動をまとめているJ R西日本の津波避難誘導心得といった、津波から自分の身を守る方法について論じている。第III章では実際に現地に行き、訪れた各駅の対策を批判的に読み解いている。津波被害想定のもっとも深刻な和歌山県の沿岸部を走る紀勢線の現状を明らかにすることで被害を少なくすることが可能となり、今後の西日本の防災を考える上で重要なテーマであると私たちは認識している。